

## ■山鼻中学校の実践

### (1) 研究内容

「生命や一人一人の存在を尊重し、学校という社会を形成する意識の育成」を目指した男女の平等・共同参画につながる教育活動

### (2) 学習活動を通して育てたい力

本校では、生命尊重や広く社会の人々とかかわる教育を教育活動の重点に位置付け、教科をはじめとする全領域において推進している。本研究では、以下の3点を、育てたい力に位置付けている。

- ①学級・学年の仲間や、社会の人とのかかわりから、個性の違いを認め合っていく力
- ②学校という社会を共につくっているという参画意識をもちよりよい集団生活を目指す力
- ③男女の役割や生命の尊重の大切さなどの理解を通し、現実の社会で行動していける力

### (3) 実践の内容

【実践1】1・2・3年生道徳「生命尊重にかかわる道徳の時間・道徳講演会」について  
○ねらい

保健体育科の授業と関連付けて、性差による機能や親の愛情などをより具体的なものとしてとらえ、生命尊重の大切さを仲間や外部講師とのかかわりの中から深く考える。

#### ○学習内容

生徒自身の誕生にかかわるエピソードや自分の宝物となっているものなどを持ち寄り、学級集団の中で、人や物に対する温かい思いを交流した。また、誕生学の講師や助産師の方を招いて、生命の誕生や人の愛情の中で育つことの大切さについて考える機会となった。

【実践2】1年生総合「ちがいのちがい」に気付くワークショップについて

#### ○ねらい

一人一人の個性が違うこと、互いの良さを認めることなどに気付き、集団はたくさんの違いをもつ人が協力して作り、よりよいものにしていくことの大切さを考える。

#### ○学習内容

男女や個人の違いを示す文を読み、これはあっていい違いなのかいけない違いなのかをグループで話し合い、その理由を交流することで、考えや価値観の違いを共有した。数人でも考えが違い、意見を合わせていくことの難しさを体験した。ゲーム的な要素の中から、日常生活につながる部分が多くあることに気付き、自分と他者との違いやかかわりについて考える機会となった。



### (4) 成果と課題

#### ①成果

外部の専門家を講師に招くことで、効果的で幅広い視点で生徒が物事を見つめていく機会となった。教科・道徳など全領域にかかわらせていくことで、一貫性をもちつつ様々な場面に応用していく可能性を確認することができた。

#### ②課題

学習したことと日常生活との関連付けについて、生徒自身が自分を取り巻く環境や生活をより細かく見つめ、実践できる力につなげていくための手立てを工夫していく必要を感じた。学習内容の吟味と学校外の人材の活用について、学校のもっている情報に限りがあることから、人権教育のいくつかのテーマにかかわるネットワークがあることもっと幅広い実践が期待できる。